

自動車安全技術プロジェクトチームの取組

愛知県では、県内の企業、大学、行政が一丸となって、自動車安全技術の研究開発・実証実験、普及啓発に取り組んでいます。
(平成25年6月設置)

メンバー

- 【企業】 (株)アイシン、(株)アドヴィックス、中部日本自動車学校、(株)デンソー、トヨタ自動車(株)、ニデックモビリティ(株)、三菱自動車工業(株)
- 【大学】 愛知県立大学、豊橋技術科学大学、名古屋大学
- 【行政】 中部運輸局、豊田市、愛知県、愛知県警察

プローブ情報活用ワーキンググループ

企業・大学・県警・道路管理者等が連携し、自動車から取得できるプローブ情報※1と交通事故データを掛け合わせて分析することで、交通事故を未然に防ぐための道路対策に取り組んでいます。これまでの主な取組では、県道やゾーン30などの市道も対象に、ABS※2が多発する箇所の現地調査を行い、対策を実施しました。

【対策例】 豊田市東新町



対策



① ドットラインの延伸

① ドットラインの延伸



② 横断歩道の前出し

② 横断歩道の前出し

③ 交差点内の道路舗装の補修

※1 プローブ情報
テレマティクスサービスを通じて収集された、車両位置や速度等の情報から生成される交通情報。ABS発生情報もその一つ。

※2 ABS
急ブレーキあるいは低速道路でのブレーキ操作において、車輪のロックによる滑走発生を低減する装置。

対策の結果、ABSの発生件数が減少するなど、一定の効果が確認できています。今後もプローブ情報を活用した道路対策を行うことにより、交通事故の減少につなげます！

事故分析ワーキンググループ

企業・大学・県警が連携し、交通事故の防止等に資する自動車安全技術の開発等を支援するため、実際に起こった事故から分析を実施しています。これまで、ドライブレコーダーの映像等、約3,600件を分析し、ワーキンググループで活用しています。

【ドライブレコーダーの映像】



【分析の結果から期待される自動車の安全技術】

衝突被害軽減ブレーキ

自動ハイビーム

路車間通信システム※3

※3 車両とインフラ設備(路側機等)との無線通信により、車両がインフラからの情報(信号情報、規制情報、道路情報等)を取得し、必要に応じて運転者に安全運転支援を行うシステム。

今後も様々な事故の分析に取り組み、企業・大学・行政が一丸となって、自動車安全技術の高度化、新たな技術の確立を支援していきます！

あなたは大丈夫?!

ドライバーの
約2人に1人が

「自動ブレーキ」を
誤解している!!

正しく理解している人



55%

誤解している人



45%

詳しくは次のページも確認しや!



コノハズク博士

自動車の安全技術

自動車安全技術プロジェクトチーム

交通事故減少のために実用化されている 自動車の安全技術はどれ？

① 衝突被害軽減ブレーキ (自動ブレーキ)



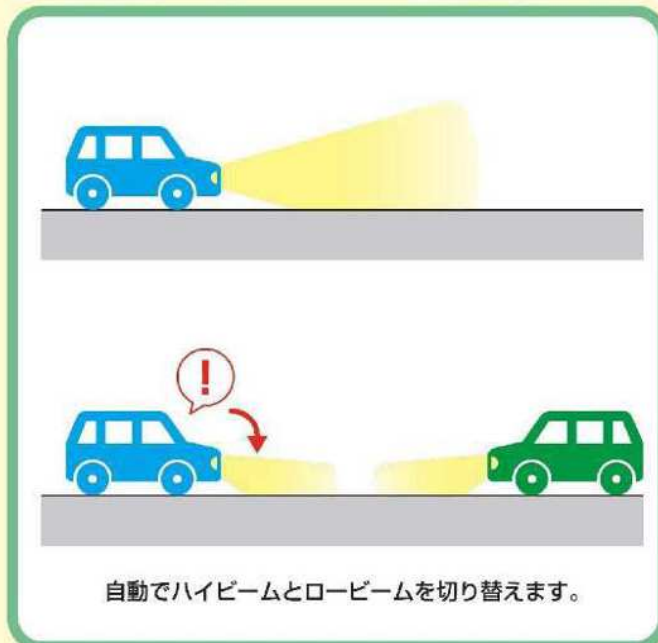
② ペダル踏み間違い時加速抑制装置



③ 車線逸脱警報



④ 自動ハイビーム (先進ライト)



正解は、すべて実用化されています！

ただし、作動条件はメーカーによって異なります。



政府は交通事故対策の一環として、これらの機能を搭載した自動車をセーフティ・サポートカー（サポカー）と愛称をつけ、官民連携で普及啓発に取り組んでいます。

コノハズク
博士

もっと詳しく教えて！



① 衝突被害軽減ブレーキ (自動ブレーキ)

「自動ブレーキはぶつからないように自動でブレーキをかけてくれる装置」と勘違いしていないかい？実は、ドライバーの約2人に1人がこの誤った認識をもっているんじゃ。正しくは、警報音でドライバーに危険を知らせて、それでもブレーキ操作がない場合は、自動車が自動でブレーキの補助動作を行ってくれる装置なんじゃ。ただし、前方の視界が悪い時など機能が十分に発揮しない場合もあるから、安全運転を心掛けるのじゃぞ！

② ペダル踏み間違い時加速抑制装置

アクセルとブレーキの踏み間違いによる事故を低減するのが、この装置じゃ！自動車が進む方向に障害物を検知している状態で誤ってアクセルを踏み込んだ時に、まず警報音でドライバーに対して注意を促して、それでも障害物に近づいたとき、自動でエンジン出力を制御して急加速を防止してくれるんじゃ。

③ 車線逸脱警報

運転中にわき見をしてヒヤリとした経験はないかい？ハンドル操作がふらついて車線からはみ出してしまった時に、自動車が車線を検知して、警報音でドライバーに対して注意を促してくれるんじゃ。その前に、わき見運転をしてしまうくらい運転に集中できない時は、休憩することが大事じゃぞ！

④ 自動ハイビーム (先進ライト)

ハイビームの正式名称は「走行用前照灯」、ロービームは「すれ違い用前照灯」だってこと、みんな知っていたかな？夜、自動車を運転するときはハイビームが基本。ハイビームならドライバーは、より遠くまで見渡すことができ、歩行者は、自動車の接近をいち早く知ることができるようになるんじゃ。自動ハイビームは、対向車を検知して自動でハイビームとロービームを切り替えるんじゃ。この他、ハイビームの照射範囲のうち対向車両のエリアのみを部分的に減光する装置もあるんじゃ！

その他の安全技術

「インフラ協調型安全運転支援システム」

交差点に設置されたセンサーが、人や自動車を検知して、ドライバーに対して接近を警報などで知らせるシステムもあるんじゃ！



自動車安全技術を正しく理解して 安全運転を心がけよう！